

トレンド・キャッチ戦略ファンド（愛称：クラッシュハンター） 運用状況と戦略発動について

2021年10月19日

平素は当ファンドをご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドのポイントと足元の運用状況などについてお知らせいたします。

当ファンドのポイント

①もしものの時の備え

世界的な金融危機を予測することや、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）を予見し大きな相場下落局面を事前に乗り切ることが大変困難です。当ファンドは、大きな下落局面で収益を獲得しやすい傾向があり、もしものの時の備えとなります。

②様々なリスク資産との併せ持ちにご活用いただけます

当ファンドは様々なリスク資産と併せ持つことで、相場下落局面におけるポートフォリオの下落幅抑制と、リスクリターンの改善効果が期待されます。

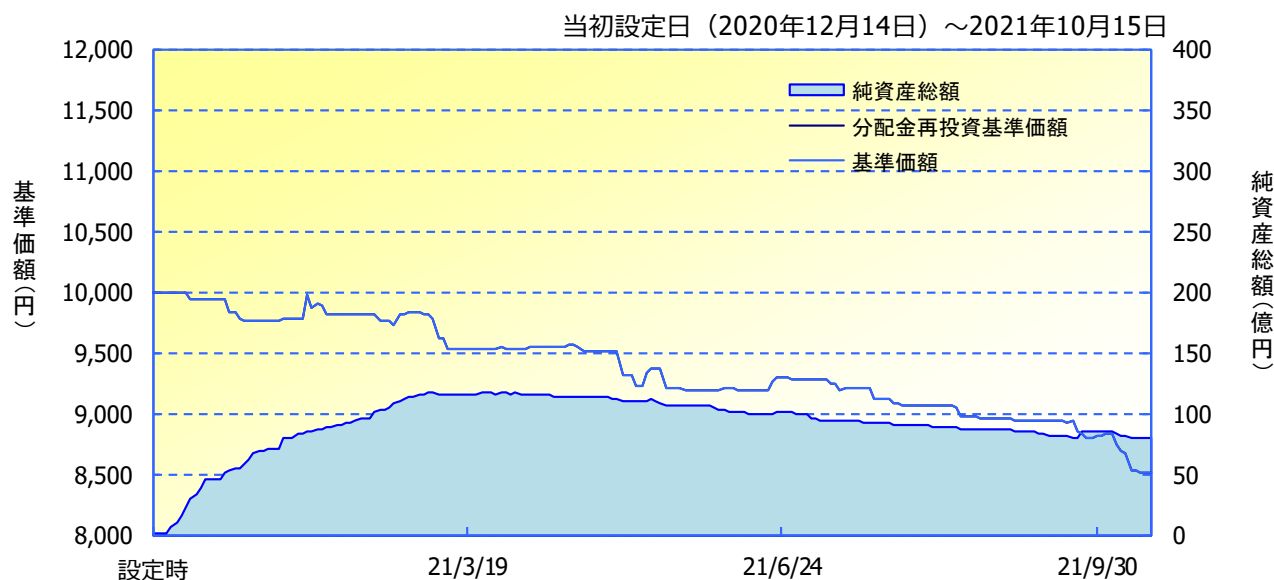
③小さな下落局面では効かない場合も

当ファンドの投資戦略は、米国株式市場の日中における株価トレンドが明確になる大きな下落局面で奏功しやすい傾向がある一方、株価トレンドが継続しにくい、あるいは反転しやすい小さな下落局面では軟調になる可能性があり、市場の下落局面で必ず上昇するとは限りません。

基準価額・純資産の推移

2021年10月15日現在

基準価額	8,516 円
純資産総額	79億円



- ※ 「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。
 ※ 基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（後述のファンドの費用をご覧ください）。
 ※ 過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

足元の運用状況について

当戦略は、2021年9月1日～10月8日の27営業日中、4営業日において買建てポジション（平均ポジション量：232%）を構築、7営業日において売建てポジション（平均ポジション量：-146%）を構築、16営業日においてポジション構築無しとなりました。

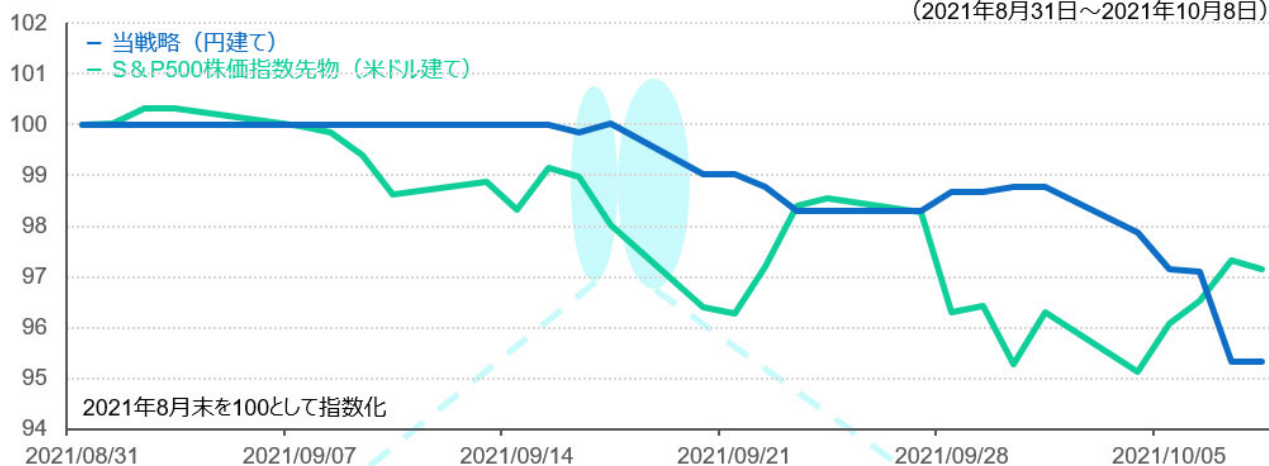
次項以降では、2021年9月1日～10月8日において市場あるいは当戦略が特徴的な動きとなった営業日について詳細を記載します。

※当戦略の営業日とは、S&P500株価指数先物の取引が行われた各日を指します。

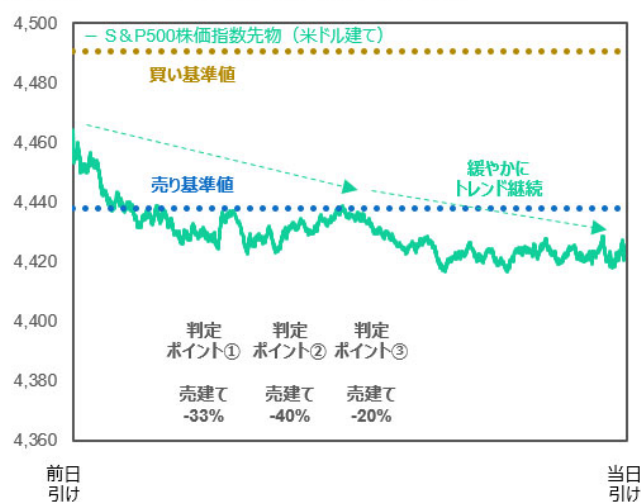
※当戦略の各データがファンドの基準価額へ反映されるのには遅れが生じます。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2021年8月31日～2021年10月8日)

S&P500
先物価格

2021年9月17日の値動き

合計
ポジション量

-93%

当戦略

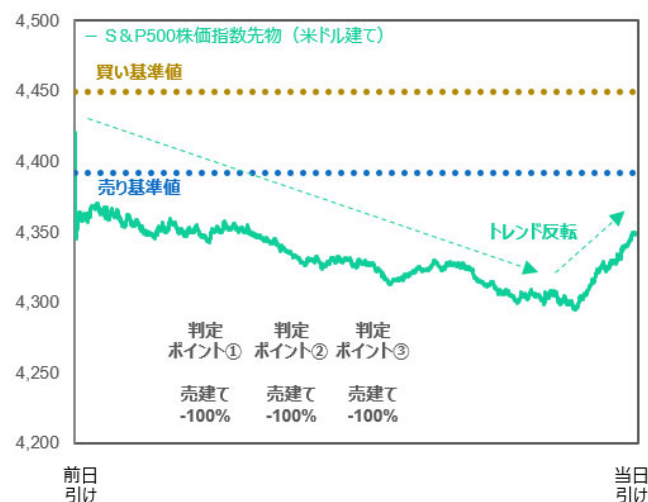
0.2%

S&P500
先物

-0.9%

S&P500
先物価格

2021年9月20日の値動き

合計
ポジション量

-300%

当戦略

-1.0%

S&P500
先物

-1.7%

➤ 9月17日の値動き

この日の米国株式市場は、新型コロナウイルスの変異種や中国不動産大手の債務危機に対する警戒から、世界経済の回復に懸念が生じたことから、下落トレンドとなりました。当戦略が売建てポジションを構築した後も、やや緩やかになったものの下落トレンドが継続したため、プラスのリターンとなりました。

➤ 9月20日の値動き

この日の米国株式市場は、引き続き中国不動産セクターに対する懸念や、米国の金融緩和の段階的縮小に関する警戒感から下落トレンドとなりました。しかしながら、当戦略が売建てポジションを構築した後は、引けにかけて押し目買いが入りトレンドが反転、当戦略は最大で300%の売建てポジションを構築していたため、相対的に大きなマイナスのリターンとなりました。

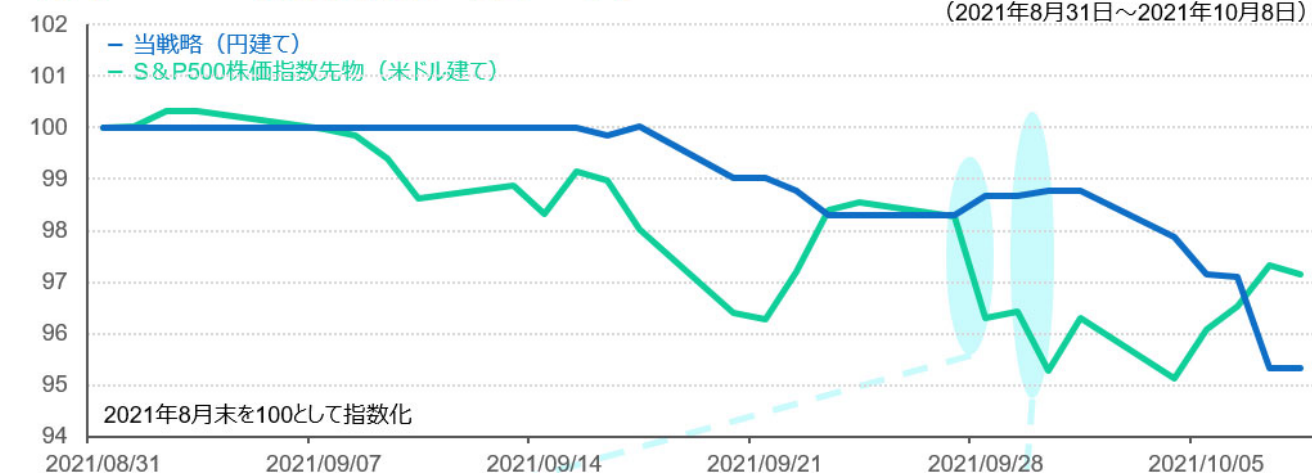
(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成

※ 当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド(円建て・クラスA)」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数(円建て、エクセスリターン)」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

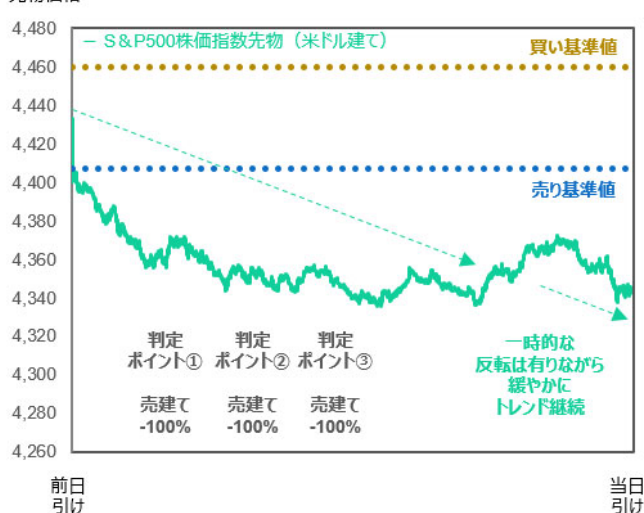
※ グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2021年8月31日～2021年10月8日)

S&P500
先物価格

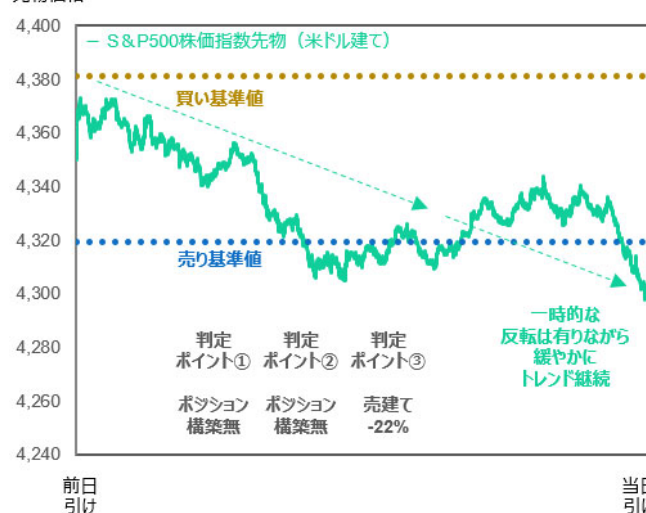
2021年9月28日の値動き



合計 ポジション量	-300%	当戦略	0.4%	S&P500 先物	-2.0%
--------------	-------	-----	------	--------------	-------

S&P500
先物価格

2021年9月30日の値動き



合計 ポジション量	-22%	当戦略	0.1%	S&P500 先物	-1.2%
--------------	------	-----	------	--------------	-------

➤ 9月28日の値動き

この日の米国株式市場は、インフレの高止まりや米国の債務上限引き上げをめぐる懸念が深まるなか、金利上昇が嫌気されて下落トレンドとなりました。当戦略が売建てポジションを構築した後についても、一時的に反転する場面はあったものの、引けにかけて下落トレンドが継続したため、プラスのリターンとなりました。

➤ 9月30日の値動き

この日の米国株式市場は、引き続きインフレの高止まりや米国の債務上限問題に関する懸念を背景に下落トレンドとなりました。一時的に反転する場面はありながらも引けにかけて下落トレンドが継続しましたが、各判定ポイントにおいてS&P500株価指数先物は売り基準値を大きく超過しておらず、当戦略の売建てポジションも相対的に小さいものとなったため、小幅なプラスのリターンとなりました。

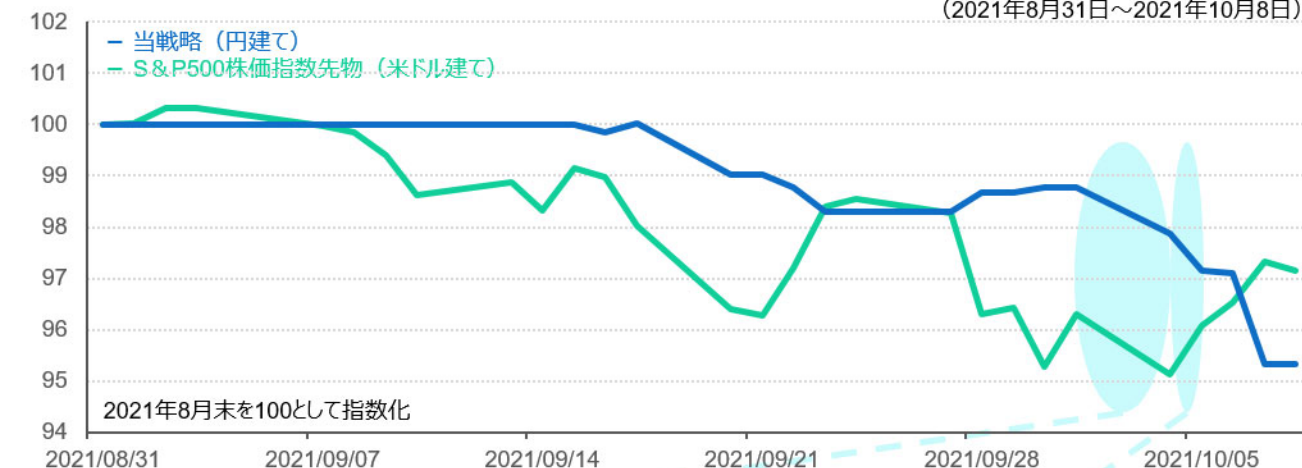
(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成

※ 当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

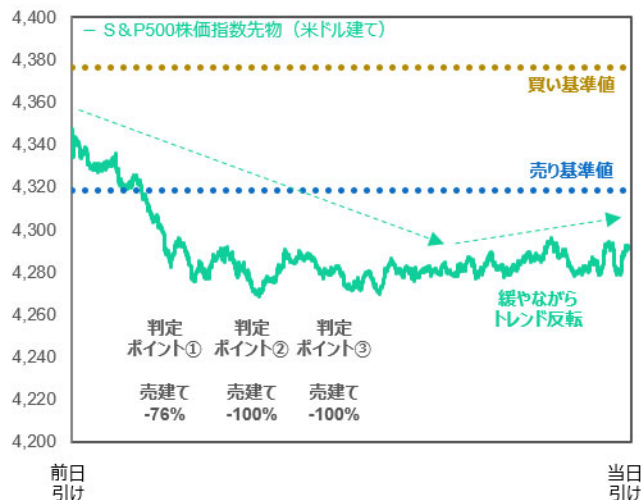
※ グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2021年8月31日～2021年10月8日)

S&P500
先物価格

2021年10月4日の値動き

合計
ポジション量

-276%

当戦略

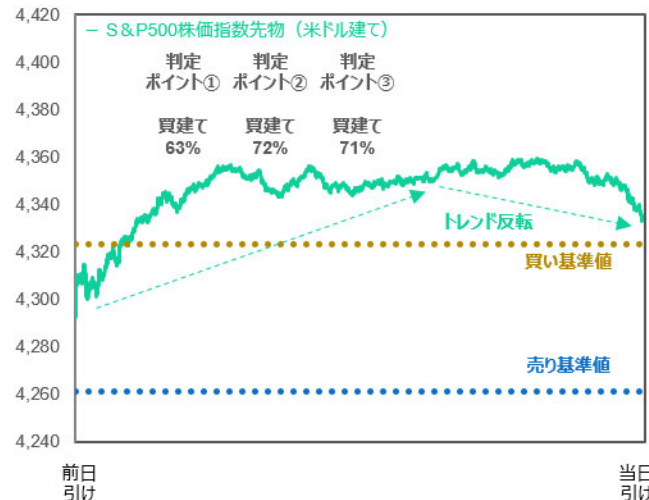
-0.9%

S&P500
先物

-1.2%

S&P500
先物価格

2021年10月5日の値動き

合計
ポジション量

205%

当戦略

-0.7%

S&P500
先物

1.0%

➤ 10月4日の値動き

この日の米国株式市場は、米国の債務上限引き上げをめぐる懸念が払拭されていない中、金利上昇により、グロース株を中心として下落トレンドとなりました。しかしながら、当戦略が売建てポジションを構築した後は、緩やかながらもトレンドが反転してしまったため、マイナスのリターンとなりました。

➤ 10月5日の値動き

この日の米国株式市場は、アジア時間午後からの反発を引き継ぎ、前日の下落からの反動が大きかったグロース株やハイテク株を中心に上昇トレンドとなりました。しかしながら、米国の債務上限引き上げ問題などの懸念が完全に払拭されていない中での上昇であったため、引けにかけてはトレンドが反転し、買建てポジションを構築していた当戦略はマイナスのリターンとなりました。

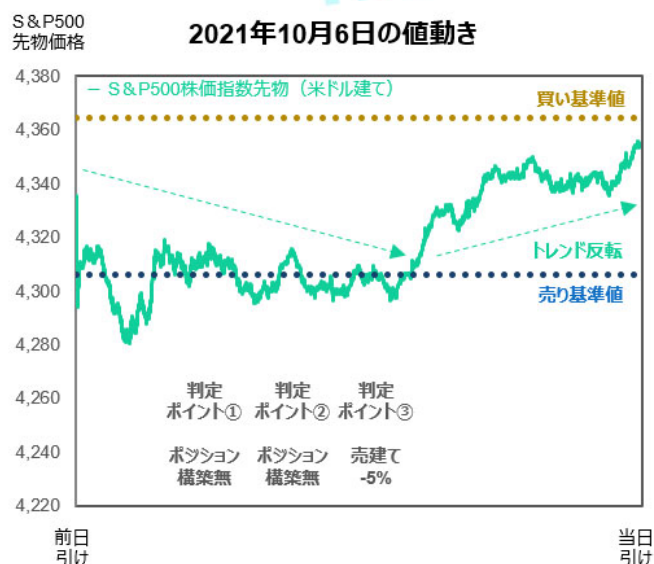
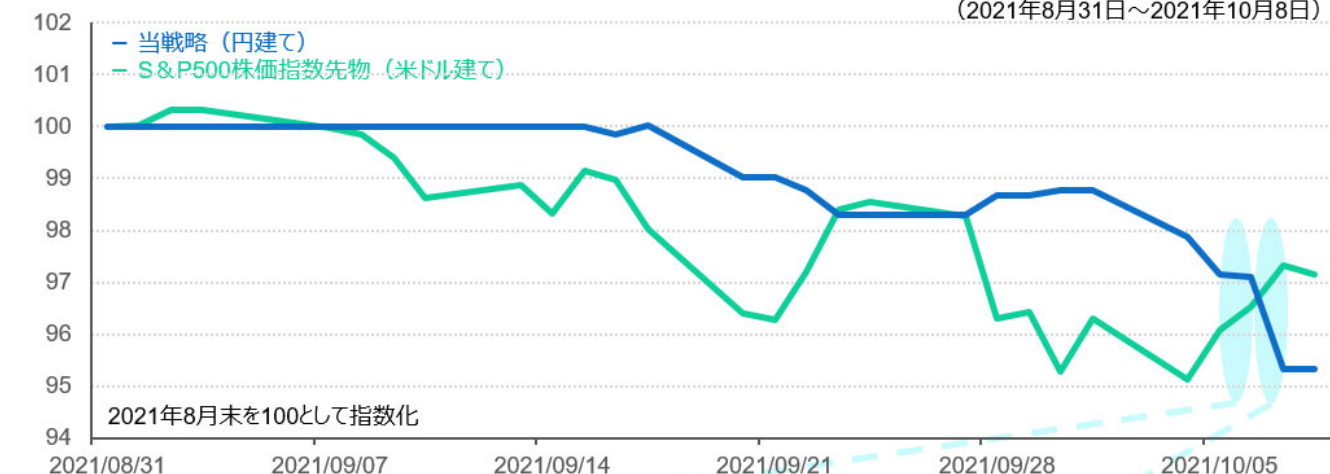
(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成

※ 当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド(円建て・クラスA)」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数(円建て、エクセスリターン)」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

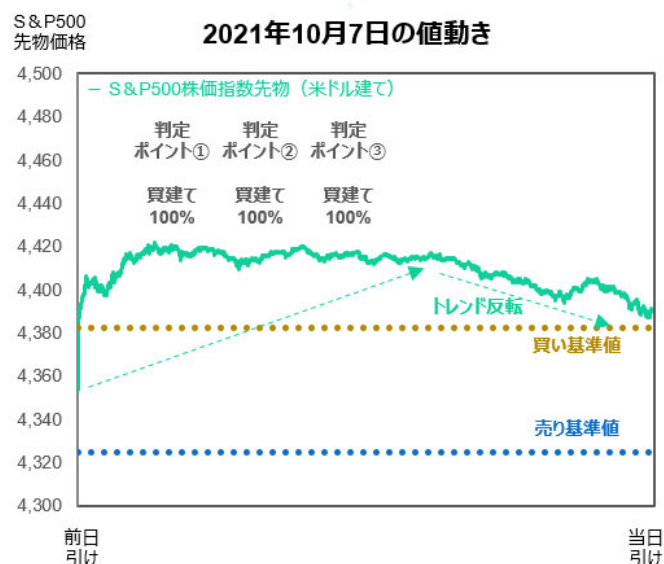
※ グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

当戦略とS&P500株価指数先物の値動きの推移

(2021年8月31日～2021年10月8日)



合計 ポジション量	-5%	当戦略	0.0%	S&P500 先物	0.5%
--------------	-----	-----	------	--------------	------



合計 ポジション量	300%	当戦略	-1.8%	S&P500 先物	0.8%
--------------	------	-----	-------	--------------	------

➤ 10月6日の値動き

この日の米国株式市場は、相対的に大きな値動きである一方で方向感の無い展開から、米国の債務上限問題が打開される可能性が浮上したため、終盤にかけて上昇トレンドが発生しました。当戦略は、判定ポイント③の時点でわずかに売り基準値を超過していたため売建てポジションを構築したものの、相対的に小さいポジション量であったため、トレンドが反転する中でおおむね横ばいの値動きとなりました。

➤ 10月7日の値動き

この日の米国株式市場は、米国の債務上限をめぐる協議が進展したほか、欧州でのエネルギー供給に対する懸念が後退したことなどを受け、上昇トレンドとなりました。しかしながら、懸念が全面的に払拭された状況ではなく、終盤にかけて上げ幅を縮小する展開となりました。当戦略が買建てポジションを構築した後にトレンドが反転したため、相対的に大きなマイナスのリターンとなりました。

(出所) ブルームバーグ、シティグループ・ファースト・インベストメント・マネジメント・リミテッドのデータを基に大和アセットマネジメント作成

※ 当戦略のパフォーマンスは、トレンド・キャッチ戦略ファンドの投資対象ファンドである「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」におけるスワップ取引の参照指数である「米国株式イントラデイ・モメンタム・レバレッジド指数（円建て、エクセスリターン）」のパフォーマンスであり、トレンド・キャッチ戦略ファンドのパフォーマンスではありません。

※ グラフ中における各判定ポイントの位置はおおよその目安を示したものです。各判定ポイントは一定の範囲内で毎営業日ランダムに変化し、正確な時刻は非公表となっています。

I ファンドの目的・特色

ファンドの目的

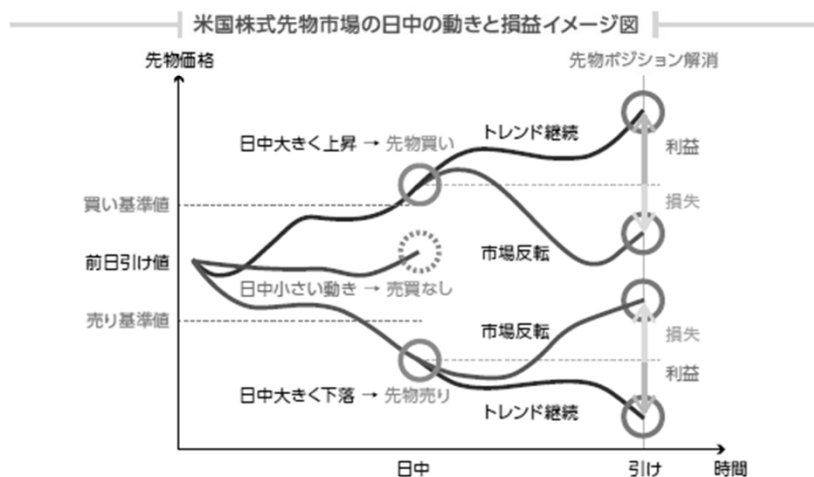
米国の株価指数先物取引の売買により信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

円建て短期公社債等へ投資を行なうとともに、トレンド・キャッチ戦略に基づく米国の株価指数先物取引の売買により収益の獲得をめざします。

●トレンド・キャッチ戦略とは

- 米国株式市場の取引時間内におけるS&P500 株価指数先物価格のトレンドを捉えることをめざします。
- S&P500 株価指数先物価格が日中に前日比で一定率以上上昇した場合には株価指数先物取引を買建て、一定率以上下落した場合には株価指数先物取引を売建てます。
- 株価指数先物取引はすべて当該取引日の取引終了までに反対売買を行なって損益を確定します。
- 株価指数先物取引の買建または売建のポジション総額は、見込み純資産総額の **3 倍程度** を上限とします。



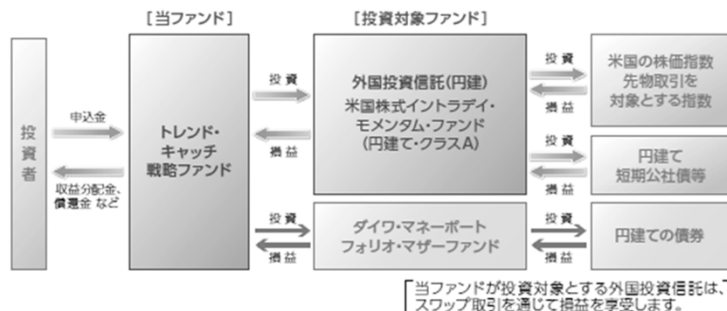
※ 上記のイメージ図は、先物価格変動の推移の例です。したがって実際の価格および基準価額の推移を示唆しているわけではありません。また、本戦略のすべてを説明するものではありません。

※ 当ファンドの将来の運用成果を保証または示唆するものではありません。

※ 当ファンドは、「米国株式イントラデイ・モメンタム・ファンド（円建て・クラスA）」への投資を通じて、トレンド・キャッチ戦略の実現をめざします。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、以下の2本の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 外国投資信託の受益証券を通じて、円建て短期公社債等へ投資を行なうとともに、実質的に米国の株価指数先物取引を行います。
- 当ファンドが投資対象とする外国投資信託では、スワップ取引を通じて損益を享受します。



※ くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「ファンドの目的・特色」をご覧ください。

投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

「株価指数先物取引の利用に伴うリスク」、「公社債の価格変動（価格変動リスク・信用リスク）」、「為替変動リスク」、「カントリー・リスク」、「スワップ取引の利用に伴うリスク」、「当ファンドが実質的に活用する戦略に関するリスク」、「その他（解約申込みに伴うリスク等）」

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 〈上限〉3.3%（税抜3.0%）	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
	料率等	費用の内容
運用管理費用 （信託報酬）	年率 1.2375% （税抜 1.125%）	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。
投資対象とする 投資信託証券	年率 0.2%程度	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	年率 1.4375%（税込）程度	
その他の費用・ 手数料	（注）	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

（注）「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※くわしくは「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。

販売会社：

大和証券

Daiwa Securities

商号等 大和証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号
加入協会 日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用：

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

商号等 大和アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第352号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。